

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場総務課 TEL42-1613



5/25

楽しく地元を学ぶ「地元学(楽)」

「いいたて学・次世代塾」



▲開講式の様子

公民館で「いいたて学・次世代塾」の開講式と第一回講座が開かれ、塾生として申込みをした19人が出席しました。

この塾は、青・壮年世代の参加者が生き方や地域への思いなどを自由に語り合いながら、地元を理解し今後の地域活動に生かしていくことを目的に、村が今年度から取り組みました。塾のテーマは「ここで生きます、心おこして」。

開講式では、はじめに菅野村長が「地元になんか素材があるか探したり、それを生かしていくことが大切。自分たちで考えて活動して欲しい」とあいさつ。続いて第一回講座として菅野村長が「飯館村の夜明け」と題して講話しました。

子育てサポーターの会が子どもを一時保育

塾生の中には幼児を含め小さい子どもをもつ親がいることから、昨年発足した子育てサポーターの会（小林洋子代表）の会員3人が、塾生たちの子ども7人を別室で一時的に保育し、塾生が安心して参加できる環境づくりに協力しました。

道路横断を模擬体験

5/9

長泥老人クラブ

「交通安全教室」



▲マットの上を歩いて道路横断の模擬体験をする参加者たち

長泥老人クラブの「交通安全教室」が長泥コミュニティセンターで開かれ、参加したお年寄りたちが交通事故防止と安全な道路の渡り方を再確認しました。

今回の教室では、福島県警察本部の協力をいただき、高齢歩行者教育システムと呼ばれる機材を使用して行いました。このシステムは、スクリーンに仮想道路と人物を映し出し、体験者がセンサー内臓のマット上を歩くと、それに合わせてス

クリーン内の人物も動くもので、走行車両の速度や道路横断に要する時間などが分かりやすく体験できます。村内でこのシステムを使って教室を行うのは今回が初めて、この日は老人クラブ会員のほか村交通指導隊や母の会も含め合わせて20人が参加しました。

参加した人たちは、模擬体験を通して道路横断のタイミングや安全確認の大切さを学んでいました。

小学校 大運動会 5/13

村内3小学校の大運動会が各校の校庭で開催されました。運動会では、かけっこやリレー、綱引き、ダンスなど多彩な種目が行われ、子どもたちはこの日のために練習してきた成果を家族や参観に訪れた皆さんに披露しました。また、白石小では5回目となる学区内行政区の合同運動会が行われ、前田行政区が優勝しました。会場には、子どもたちの元気な声や家族などからの応援の声が響きわたっていました。



▲6年生の180m走(草野小)



▶フライングを使ってボールを転がせ(飯樋小)



▲昨年の「立村 50 周年記念祭」でも披露した相馬盆踊り(白石小)



▲大玉ころがし(草野小)



▲飯樋地区の伝統「飯曾小唄」(飯樋小)



▲親子で大玉運び(白石小)



▲来年は小学1年生(飯樋小)



▶行政区対抗玉入れ(白石小)
▲スタート120m走!(草野小)



5/28 つなげよう 輝く未来へ 緑のバトン

相馬地方植樹祭



▲草野小緑の少年団と一緒に植樹する菅野村長

森や緑を守り育て緑豊かな潤いのある美しい地域づくりを推進するため、毎年この時期に開催しています。今回は6年ぶりの飯館村開催となりました。

植樹祭では、出席者たちがイベント広場内にツツジやサクラ、モミジ、ヤマボウシ、ナナカマドなど9種類、計200本の本々を草野小緑の少年団たちと一緒に植樹しました。

また植樹祭では、緑化功労者表彰として「いたてもりの案内人」と高野靖博さんに賞状が贈られました。「いたてもりの案内人(佐藤道子代表)」は、平



▲代表して表彰を受けるいたてもりの案内人の今野さん

成11年に福島県もりの案内人の認定を受け、5人の会員が自然観察会やネイチャーゲームの開催を通して、幅広い世代に森林の仕組みや大切さなど緑化思想の普及啓発活動に取り組んできました。高野さんは、平成15年から「あいの沢」管理人を務め、子どもたちに自然観察会や木工教室等を通して森林とふれあう機会を創出しています。これらの功績が認められての受賞となりました。

来年の植樹祭は南相馬市で開催されます。



▲セレモニーのようす

行政相談委員活動の功績に対して



▲左から高崎所長、多田さん、長正副村長

多田宏さんに感謝状

今年3月までの2年間にわたり村の行政相談委員を務めた多田宏さん(宮内)に、福島行政評価事務所長から感謝状が贈られました。

役場村長室で行われた贈呈式では、高崎清所長が「2年間ありがとうございました」と労をねぎらいながら、多田さんに感謝状を手渡しました。

行政相談委員は、市町村長の推薦を受けて総務大臣が委嘱するもので、国やN T T、特殊法人等の仕事に関する苦情や要望などを聞き、必要な助言をしたり、苦情解決を図る国民と行政のパイプ役を担っています。

4月からは本田純子さん(草野)が、村の行政相談委員に委嘱され活動しています。

自衛隊福島駐屯地第44普通科連隊第3中隊の行進訓練が本村で実施され、隊員ら80人が参加し、役場から大倉までの約20kmを行進しました。

これは、地域の地形を把握したり、自衛隊活動を広く紹介することを目的に自衛隊福島駐屯地が実施したものです。同隊は相双地区で災害が発生した時に優先して出動する部隊に指定されており、歩行ルート等を検討した結果、本村で実施することになりました。相双地区でこの訓練を実施するのは今回が初めてです。訓練では、はじめに役場玄関前で出発式が行われ、菅野村長が「今日の訓練は

威風堂々 80人の隊列 陸上自衛隊「行進訓練」



▲伊丹沢地内を行進する隊員ら

自衛隊の姿や努力を村民に見ていただける良い機会です」と隊員を励ましたのに続き、第3中隊長の似内昌之3等陸佐が「村の自然や村民とふれ合いながら、任務達成のために励みます」とあいさつしました。

その後、隊員らは飲料水や救助用具などが入った重さ約20kgのリュックを背負い、村職員や自衛隊父兄会飯館支部会員らの見送りを受けながら役場を出発。草野から宮内を通り、約5時間かけて真野ダムまで歩きました。

隊員らは新緑鮮やかな村の自然を満喫しながら、訓練に励んでいました。



▲20kgのリュックの重さを体感する村民ら

5/26

地域づくり実践ゼミナール



▲ゼミのようす

公民館の多目的集会所で「まぐい共学ゼミ」が開かれ、福島大学の教授や村民合わせて21人が参加し、団体の個人を取り組みや地域づくりなどについて理解を深めました。

このゼミは、昨年7月に発足した村を応援する組織「いたて・まぐい・ユニット」に加入している福島大教授17人の呼びかけで始まりました。村民がお互いに思っていることや取り組んでいることを話し合い、現状や課題を共有しながら、今後の方向性や取り組み方を考えたり、課題を解決していくことを目的としています。

まぐい共学ゼミ

この日は、渡辺とみ子さん（前田・八和木）と佐藤隆明さん（上飯樋）が「私が考えていること」をテーマに発表。渡辺さんは「田舎のハッスルかあちゃん」が起業する覚悟」と題し、加工組合「まぐい工房美彩恋人」を起業する苦労や課題、今後の目標などを発表しました。佐藤さんは「伝統文化における飯館村の地域づくり」と題し、伝統文化は人の心をつなぎ合わせるもので、その継承が仲間づくりや世代間交流にもつながっていることなどを発表しました。

この後、発表した内容について意見交換をしたり、参加者同士の交流を深めました。

ゼミでは、毎回2人の村民が発表することにしており、今後も月1回のペースで開く予定です。どなたでも参加できますので、皆さんも一緒に地域づくりを考えてみませんか。

5/24

福島県代表の誇りを持って 全国女性消防操法大会「結団式」



▲結団式のようす

の後、来賓の菅野村長と荒団長が選手たちに激励の言葉を贈り、最後に選手代表の石川副隊長が謝辞を述べました。

選手たちは、4月から毎週2回の訓練を行っています。全国大会は、10月26日に神奈川県横浜市内で開催されます。

【出場選手】（順不同 敬称略）長谷川静江（伊丹沢）、菅野さよ子（飯樋町）、古林美保（飯樋町）、菅野真緒美（前田・八和木）、石川幸枝（比叡）、佐藤智江（関根・松塚）



▲高橋隊長（右）から任命書の交付を受ける選手

福島県代表として「第18回全国女性消防操法大会」へ出場する村女性消防隊「結団式」が公民館多目的集会所で開かれ、出場選手や女性消防隊員、消防団員など30人が出席しました。結団式では、はじめに高橋美佐子隊長が選手一人ひとりに任命書を交付したのに続き、高橋隊長が「選手の皆さんには県代表としてぜひ頑張ってください。こ

5月 咲き誇るクマガイソウ



▲咲きそろったクマガイソウ

上飯樋の細川太壽さん宅の裏山で約1000株のクマガイソウが見事な花を咲かせました。

このクマガイソウは、細川さんが20年程前に知人から譲り受けた5本と、森林の仮払いをしている時に見つけた10本の株を持ち帰り、家の裏山に植え付けしたものです。毎年株分けをしなが

ら大事に育て、約20年かけて1000株以上にまで増やしました。細川さんは「増やすコツは根を長く付けて株分けすること。これからも増やしていきたい」と笑顔で話していました。

5/27

相双地区ゲートボール大会

33チームが熱戦



▲大会のようす

相双地方の市町村を持ち回りで開催している「相双地方ゲートボール大会」が、今年は飯館村を会場に行われ、各市町村の代表33チームが出場し、スポーツ公園陸上競技場で熱戦を繰り広げました。大会は予選リーグと決勝トーナメントで行われ、このうち本村からは花塚チームが決勝トーナメントに進出しました。大会結果は次のとおりです。

優勝・太田（南相馬市）準優勝・原町西部（南相馬市）、3位・南右田B（南相馬市）、4位・太田（富岡町）、5位・花塚（飯館村）、6位・上古（相馬市）



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ

親の氏名

行政区

坂本里菜ちゃん	正男・小百合	大久保・外内
高倉夢摘ちゃん	政知・友美	前田
井上結愛ちゃん	吉徳・真矢	関沢

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名

行政区

高野 誠	関 沢
川井 麻里	南相馬市
佐藤 淳	大久保・外内
高橋 かおり	伊達郡川俣町
山田 貴志	伊丹 沢
南部 祐子	伊丹 沢

いつまでもお幸せに

お く や み

氏名

年齢

行政区

大和田 健	33	八木沢・芦原
柴田 キヨ子	85	上飯樋
齊藤 久	90	深谷
武藤 忍	87	二枚橋・須萱
高橋 クラ	97	二枚橋・須萱
中島 留良	92	比曾
八巻 光一	74	上飯樋
阿部 はや子	83	伊丹沢(深谷)
菅野 シケ	96	長泥

ご冥福をお祈り申し上げます

(4月21日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成19年5月1日現在)

人口	今月 (前月比)	去年同期
男	3227人 (-18人)	3280人
女	3259人 (-6人)	3310人
計	6486人 (-24人)	6590人
世帯数	1731戸 (±0戸)	1735戸

◆◆◆4月1日～30日までの人口動態◆◆◆			
転入	20人	転出	39人
出生	3人	死亡	8人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

5/9

松林茂さんに瑞宝単光章



▲左から菅野村長、松村さん、荒消防団長、本間消防飯館分署長

平成19年春の叙勲伝達式が東京都内で開かれ、元飯館村消防団長の松林茂さん(伊丹沢)が、消防功労と

して栄えある瑞宝単光章を受章しました。
松林さんは、49年間にわたる村消防団員として地域や住民の安全確保に尽力してきました。今回の章は、長年の活動の功績に対して贈られたものです。
受章報告のため役場に訪れた松林さんは「村はじめ消防団員たちのご支援があつてこそその章です。そして家族の支えもなければ長く続けられませんでした。皆さん本当にありがとうございます」と受章の喜びと感謝の気持ちを話していました。

5/3
5/6

団体・個人10店が参加



▲店の前で品物に見入る買い物客ら

旧ステークハウス前で「いいたて春のワクワク祭り」が開催

いいたて春のワクワク祭り

され、出店した団体・個人が村産品などの展示・即売会を行いました。
この祭りは、村の春を多くの人に丸ごと感じていただきながら特産品等を広く紹介する目的で、村振興公社が参加を呼びかけ、参加者による実行委員会が実施しました。
会場には加工品や苗木、手打ちそば、地酒、野菜などを展示・販売する団体・個人合わせて10店が並び、各店の前には多くの家族連れなどが列をつくっていました。



▲販売中の猪カレー

特産猪カレー販売中

萩の里猪飼育センター(長谷川健一代表)では、このほど猪の肉を使ったレトルトカレーを開発し、ミートプラザや「きこり」・村内直売所、コンビニなどで販売中です。こだわりの食材を使い、何度も研究と試食を重ねて商品化しました。
この猪カレーは250グラム入りで価格は900円です。ぜひ、ご賞味ください。

5/16

交通安全街頭キャンペーン

村公民館駐車場で「交通安全街頭キャンペーン」が行われ、交通安全関係団体等から20人が参加しました。
このキャンペーンは「春の交通安全運動」に合わせて毎年実施しています。4月に村生活安全協議会(会長・村長)が発足したことから、今回からその交通安全本部会(只野俊部会長)が実施主体となりました。



▲安全運転を呼びかける小沼署長

ら、事故防止を呼びかけました。このヤクルトは村ライオンズクラブ(森勝会長)から提供されたものです。
また、この日は南相馬警察署の小沼署長も参加し、一緒に安全運転を呼びかけました。

こころの
ぽけっと

町村としての主張を!

この5月をもって、2年間の福島県町村会の会長職を降りました。この間、町村の数は全国的には2500程から約1000に減り、福島県では80の町村が47になり、町村の存在感が大変うすくなっていました。

さらに、小さな自治体は「効率が悪いから」「お金がかかるので」という考え方のみで「もつと町村の数を減らそう」「県もなくなつて道と州に」などという地方を軽視した動きが進められようとしています。

私は、町村の重要性や存在意義、多くの長所、さらには「小さい方が頑張っている」ということを多くの方に訴えていく必要があるのではと考え、県町村会会長の職を最大限に活用して、

用して、在職中多くの発言をし、さらに色んな行動をしてきたところで、その一つとして、全国でも初めてのようですが、福島県町村会として「主張広告」を福島民報新聞、福島民友新聞に掲載しました。内容は次のようなことです。

私たちの住む地球には大きな国もあり、小さな国もある。私たちの住む福島県にも大きな市もあり、小さな町村もある。いろいろあつて、それでいいのでは……

小さな町村は身の丈に合った行政に懸命に取り組んでいます。町や村には私たちの心をほっとさせるなにかがあります。このふるさとに「私のすべて」があると云つてよいでしょう。情熱を傾けようじゃないですか、このふるさとに。大切にしようじゃないですか、このふるさとを。

このような町村会の広告でした。
平成19年5月28日

飯館村長 菅野 典雄